

第3回 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	令和5年9月29日(金) 13時30分～18時30分
開 催 場 所	1 保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター 2 神奈川区精神障害者生活支援センター
出 席 者	伊東委員、池田委員、田中委員、西川委員、平濱委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開(傍聴者0人)
議 題	1 議事の進め方について 2 議事(保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター) (1) 自己評価シートの確認 (2) 施設見学 (3) 書類確認及びヒアリング (4) 評価の審議 3 議事(神奈川区精神障害者生活支援センター) (1) 自己評価シートの確認 (2) 施設見学 (3) 書類確認及びヒアリング (4) 評価の審議 4 その他
決 定 事 項	なし
議 事 (保土ヶ谷区)	<p>【主な質疑内容】</p> <p>委員:保土ヶ谷区の地域特性や保土ヶ谷区生活支援センターの各事業の展開状況及び今後の展望等について教えていただきたい。</p> <p>指定管理者:横浜市で9番目の人口規模で神奈川区、西区、南区、戸塚区、旭区及び緑区の6区と隣接している。エリアによって地域特性も違う。精神科有床病院は常盤台病院と港北病院がある。法人理念は「夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋を築く」と定めており、これに加えて保土ヶ谷区生活支援センター独自で目指すべき姿を定めている。基本相談に一番注力していきたいと考えているが、参加する会議も多いことや他事業とのバランスもあり難しい状況にある。最近、青少年センターやユースプラザからの紹介で生活支援センターの利用につながる方も増えてきている印象がある。</p> <p>区独自の取組みとしては、区づくり事業として「多職種連携によるアウトリーチ支援」があり、相談や医療機関に行けない人の地域生活を支えるために、多職種による訪問(アウトリーチ)支援チームを設置し、支援を行っている。多職種支援チームの専門職がそれぞれの強みを生かして、より充実した包括的なアウトリーチ支援を行うことで、対象者が医療や福祉サービス等に繋がり、病状の重篤化を防ぐことが期待できる。訪問看護も支援に加わることで、嘱託医師相談等だけでは実現できない「継続的で頻回な訪問支援」</p>

	<p>と福祉的な支援だけでは実現できない「精神科医療への早期アクセス」を実現できるようになるといった利点がある。</p> <p>特定相談（計画相談）については、生活支援センターの事業規模を勘案すると 60 ケース位が妥当と考えており、整理かけて現在の 90 ケースに絞っている。そのため計画相談の件数は減少傾向。一方で、地域移行・地域定着支援事業については、昨今の社会情勢からもニーズが高いため数字は変わっていない。地域交流事業（ネットワークづくり）にも力を入れていきたい。</p> <p>医療機関との連携について部会の副会長が病院の方ということもあり、普段から連携は取れている。</p> <p>委員：組織運営及び体制についてBの理由について教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：一時的に職員がコロナ等で急遽休んだりすることもあったためB評価とした。</p> <p>委員：個別に抱え込まない体制とは具体的にどのような取組みをしているのか。</p> <p>指定管理者：生活支援センターの勤続年数が7年未満の職員が半数を占めていることもあり、定例のスタッフ会議の後に、各事業担当の振り返りの時間を設けて、意識的に聞きやすい雰囲気を作るようにしている。</p> <p>委員：各種マニュアルの直近の改定時期はいつ頃か。</p> <p>指定管理者：昨年度マニュアルを一斉に改定している。スタッフ会議などで意見交換をした上で改定している。</p> <p>委員：フリースペースの利用者の層やフリースペースの今後のビジョンについて教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：昔と比べると居場所としての機能は少なくなってきたと感じている。他の関係機関とも連携し、色々な方に有効活用してほしいと考えている。</p> <p>委員：事故発生時の対応について具体的な事例があれば教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：食事の注文漏れが発生したことがある。この件については、既に注文票の様式を変更することで再発防止策を講じている。</p>
<p>議 事 (神奈川区)</p>	<p>委員：神奈川区の地域特性や神奈川区生活支援センターの各事業の展開状況及び今後の展望等について教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：まず評価シートの作成にあたっては、生活支援センター内で前回の第三者評価の内容を確認しながら更新していった。その後、法人本部で内容を確認し評価シートを作成した。神奈川区生活支援センターの利用者層としては平均年齢 48 歳で、磯子区生活支援センターと同様に高齢化が進んでいる印象。単身世帯は約 6 割。標準化に伴い、自区登録の割合が多くなった。この他、標準化の影響として、開館時間が短くなったことで就労している方は夕食利用の使い勝手が悪くなってしまったので、土曜日利用の推奨等、フォローするよう心がけている。来館者数は現在、徐々に回復傾向にあり、特に相談のニーズが高く区役所への用事の前後で立ち寄る方も多い。</p>

	<p>訪問・同行件数が減っていることについては特定相談支援事業（計画相談）と自立生活アシスタント事業分が入ってこないことが原因として挙げられる。また令和3年度は緊急対応が通常よりも多かった。</p> <p>特定相談支援事業（計画相談）は神奈川県区内で撤退した事業所もあるため60～70ケースを対応中。利用者の相談内容が複雑化している。この他、コロナ禍で地域活動を中断していたが、現在は復活に向けて動き出している。</p> <p>委員：家族会での勉強会で生活支援センター職員が講師を務めた際の具体的な内容はどのようなものか。</p> <p>指定管理者：横浜市の緊急時予防対応プランの説明や親亡き後の対応について等。親御さんが存命のうちに生活支援センターにつながってほしいという意味も込めて開催している。</p> <p>委員：ピアスタッフの今後の展望について教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：ピアスタッフの雇用は現在ない。素地が整っている施設から来年度目途に配置をさせたいと考えている。</p> <p>委員：職員フロアからリースペースまで距離が遠いことへの課題感はあるか。</p> <p>指定管理者：課題として認識しており、監視カメラの設置も検討したこともあるが、当面は現状のままと考えている。</p> <p>委員：若い人への掘り起こしについては、どのような考えか教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：若い方でも受診をしている方が多いので、医療機関にパンフレットを置き、周知している。今後は法改正もあり、利用者層は広がっていくと感じている。この他、昔と比べると統合失調症の利用者以外にも発達障害の利用者が増えてきている印象がある。発達障害の利用者の来所経路としては、主治医からの紹介の他、区役所の高齢・障害支援課MSWや生活支援課からが多い。</p> <p>委員：職員の欠員の対応状況について教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：嘱託職員だと募集をしても応募がない状況。その分、人材派遣の事務を入れており、他職員が相談支援に注力できるような環境を整えることで欠員分カバーできるよう対応している。</p> <p>委員：人材育成について補足があれば教えていただきたい。</p> <p>指定管理者：総合保健医療財団全体の人材育成指針の他、精神部門に特化した人材育成指針も作成している。自己申告制で研修に参加する他、研修を実施する側にまわることでスキルアップを図っている。生活支援センター内で業務分担を変えたりすることで、視野を広げられるような工夫をしている。この他、総合保健医療財団内での実践検討報告会もある。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会委員名簿</p> <p>(2) ヒアリング時役割分担</p>

	<p>(3) 横浜市精神障害者生活支援センター評価総括表</p> <p>(4) 当日準備資料一覧</p> <p>(5) 横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター事前提出資料</p> <p>(6) 横浜市神奈川区精神障害者生活支援センター事前提出資料</p>
2	<p>特記事項</p> <p>なし</p>